公益財団法人日本パラスポーツ協会
〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町2-13-6 EDGE水天宮ビル3階　TEL：03-5939-7021　FAX：03-5641-1213　E-mail：soumu@parasports.or.jp

2021年8月第1版発行
2021年12月第2版発行

2030年ビジョン

活力ある共生社会の実現に向けて

公益財団法人日本パラスポーツ協会

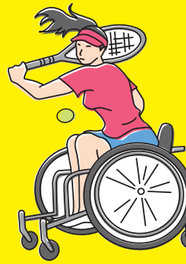
JPSAのビジョン

活力ある
共生社会の実現

「パラスポーツを普及・拡大する(裾野を広げる)」取り組みと、「競技力の向上を図る(山を高くする)」取り組みを「好循環」させることによる「パラスポーツの振興」を通じて、多様性を認め合う「活力ある共生社会の実現 (木を繁らせる)」を目指す

JPSA
Japanese Para Sports Association

パラスポーツ振興の理念



1 障がいの有無、性別、年齢、国籍や、価値観、性格の違いなどの多様性を尊重し、誰もが個性を発揮して活躍できる社会を目指す

2 スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、自律心を養うとともに、社会の一員としての人格形成に寄与する。このようなスポーツの価値を、障がいのある全ての人が共有できるようにする

3 スポーツを通じて、社会の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加を広げる

ビジョン策定の基本的考え方

東京2020大会は、ユニバーサルデザインの街づくりと人々の意識の変化(心のバリアフリー)を重要なレガシーとして、「共生社会を育む契機となるような大会」を目指している。JPSAは、この東京大会のレガシーを更なるパラスポーツの振興に繋げ、活力ある共生社会を実現するために「2030年ビジョン」を策定した。

東京2020大会のレガシーを更なるパラスポーツの振興に繋げるための4つの課題

1 パラスポーツの普及拡大のための環境整備

2 パラスポーツの競技力向上と、普及拡大との「好循環」を推進するための体制強化

3 「好循環」を持続させるための更なるパラスポーツの理解促進とファンの拡大

4 パラスポーツの更なる発展に向けたJPSAの万全な基盤づくり

活力ある共生社会を実現するために

果たすべき使命

Mission 1

パラスポーツの普及拡大の実現

❶ **パラスポーツの普及拡大の環境づくり**
- 全国障害者スポーツ大会の発展
- 学校でのパラスポーツ理解の環境づくり
- 障がい者スポーツセンターの利用環境の充実

❷ **公認障がい者スポーツ指導者の育成**
- スポーツ指導者数の拡大
（スポーツサポーター制度の導入検討・実施）
- スポーツ指導者の育成

❸ **パラスポーツ振興に関する連携・協働**
- 競技団体への支援
- 日本スポーツ協会等との連携・協働

❹ **パラスポーツに関する調査・研究**
- 大学等との協働
- 重度障がい者、高齢障がい者等のスポーツ参加に向けた調査・研究

Mission 2

全国における行政、学校、関係諸団体等との強い連携・協働

❶ **県市等におけるパラスポーツ振興への支援**
- 県市等でのスポーツ教室・大会・イベント開催の促進
- 県市等の障がい者スポーツ協会の組織運営の支援（商工会議所等地元経済界・企業との連携の支援、県市等に専任コーディネーターの配置）

❷ **県市等におけるスポーツ関係団体間の連携の支援**
- 県市等における障がい者スポーツ協会、同指導者協議会、行政機関の三者の協働支援

Mission 3

競技力の向上とパラスポーツの価値・魅力の向上

❶ **競技力の向上**
- 世界を目指すパラアスリートの活躍支援（「JPC戦略計画」参照）
- 強化環境の整備（ハイパフォーマンスセンターの活用）
- 日本オリンピック委員会等との連携強化

❷ **日本での主要国際大会開催への協力**
- 札幌冬季パラリンピック大会の日本招致協力
- アジアパラ競技大会（愛知県）開催への協力
- デフリンピック夏季大会の日本招致協力

❸ **競技団体・パラアスリートへのスポーツインテグリティの向上**
- ガバナンスの強化とコンプライアンス・インテグリティの徹底
- アンチドーピング活動の徹底

Mission 4

パラスポーツを通じた国際協力の推進

❶ **国際協力**
- 国際役員の輩出や国際協力事業等（「JPC戦略計画」参照）

Mission 5

共生社会実現に向けた国民の意識変革の促進

❶ **パラスポーツの理解促進及び広報**
- パラスポーツ大会等の開催（ジャパンパラ競技大会）
- パラスポーツ・共生社会推進月間（8月）の展開
- I'mPOSSIBLE（IPC公認教材）の活用
- 広報活動の充実
- マスメディアとの連携

Mission 6

JPSAの万全な基盤づくりの実現

❶ **JPSAの体制の強化**
- JPSAの業務遂行体制の見直し・強化
- 専門委員会の効率的・効果的運営

❷ **財政基盤の充実・安定化**
- 活動資金の安定確保
- 企業のスポンサー制度の充実
- 寄付金募集の拡充

JPC戦略計画

世界を目指すパラアスリートの活躍支援戦略

❶ **トップアスリートの強化**
- 国際大会派遣に伴う支援
- 重点強化競技のメダル獲得に向けた強化
- 医・科学・情報サポートの充実、競技用具の研究・開発促進
- トップアスリートの環境整備
- メダル獲得の可能性のあるアスリートの強化

❷ **アスリートの発掘・育成**
- JPCアスリート育成パスウェイの構築及び競技団体アスリート育成パスウェイの構築
- 女性アスリートの育成
- メダルポテンシャルアスリート（MPA）の増加策の検討実施
- タレント発掘活動の実施

❸ **JPC加盟競技団体の組織力の強化**
- 競技団体役員のマネジメント力の向上
- ガバナンスの向上

パラリンピックムーブメント推進戦略

❶ **パラスポーツの価値向上**
- JPCブランド価値向上
- 広報活動の充実

❷ **パラスポーツ教育**
- パラリンピック教育（I'mPOSSIBLE）の国内普及

❸ **アスリート教育（人間力の向上）**
- インテグリティ・ハラスメント研修会の実施・充実
- アスリート教育プログラムの開発・実施・推進

❹ **国際協力**
- 国際役員としての活動を通じた世界のパラスポーツ発展への協力
- 他組織との連携・協働を通じた世界のパラスポーツ発展への協力

2030年目標 「数字」はミッションと連動

Future 1

- 障がい者成人の週1回以上のスポーツ実施率目標(文部科学省)達成への貢献
- 公認障がい者スポーツ指導者の資格保有者が全国で5万人

Future 2

- 全国の全ての県市等において障がい者が日常的にスポーツを楽しむ環境が整いスポーツに参加
- 全国の全ての県市等において障がい者スポーツ協会、同指導者協議会、行政が連携を深め、三者が主体的にパラスポーツ振興を推進

Future 3

- パラリンピックのメダル目標
  東京2020大会の成績等を考慮して別途検討
- パラリンピック・デフリンピック等の各種実施競技の国際大会を日本で毎年開催
- 全ての競技団体の法人化とガバナンスコードを遵守した自律的な運営の実現

Future 4

- 国際機関(IPC等)の役員や競技運営役員等を輩出

Future 5

- 意識調査でパラスポーツ・共生社会に関する国民の理解・意識改革が着実に進展

Future 6

- 部門を超えて対応できる柔軟なJPSA組織の実現
- JPSAオフィシャルパートナーの拡大(40社)とJPCスポンサー制度の新設による財政基盤の確立

パラスポーツ＝もうひとつのスポーツ

「パラスポーツ」は地域行政や企業のイベント、マスコミ等で既に一般化しており、より親しみやすく分かりやすい呼称として、本ビジョンでは使用。

パラスポーツの特徴

- 一般に行われているスポーツをベースに障がいの種類や程度に応じてルールや用具を工夫しているスポーツ
- 障がいのある人のために考案されたスポーツ

パラスポーツの将来性

- 障がいのある人もない人も共に実践して楽しめるスポーツ

日本パラスポーツ協会(JPSA)

1964年東京パラリンピックを契機に創設 ～日本におけるパラスポーツの統括団体～

1964年に開催されたパラリンピック東京大会を契機に、わが国の身体障がい者スポーツの普及・振興を図る統括組織として、65年に財団法人日本身体障害者スポーツ協会が設立されました。98年の長野県で開催された冬季パラリンピックを契機に、3障がい(身体、知的、精神)全てのスポーツ振興を統括する組織として、また国際舞台で活躍できる選手の育成・強化を担う統括組織としての位置付けが有識者会議で提言されました。そこで99年、財団法人日本障害者スポーツ協会に組織名を改称するとともに、協会内部に日本パラリンピック委員会を創設しました(その後、2014年8月公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に改称)。2021年10月、東京2020パラリンピック競技大会のレガシーを継承し、障がい者スポーツの一層の普及・振興を図るために、協会名称を日本パラスポーツ協会に変更しました。

日本パラスポーツ協会
コミュニケーションマーク

デザインは火の鳥の羽をモチーフにした。赤は未来へ飛翔するアスリートたちの心のなかに燃える炎をイメージしている。

日本パラリンピック委員会(JPC)

1998年に開催された長野パラリンピック冬季競技大会を契機に、99年、JPSAの内部組織として日本パラリンピック委員会(JPC)を創設しました。JPCは日本を代表する組織として、国際組織・競技団体に加盟し、国際競技大会への選手団派遣や、国内の選手強化を実施しています。

Japanese Paralympic Committee

パラリンピックとは。

平昌2018パラリンピック
冬季競技大会の開会式の様子

世界からトップアスリートが集結

パラリンピック競技大会(Paralympic Games)は、夏季・冬季それぞれのオリンピック開催年に、原則としてオリンピックと同じ都市・同じ会場で行われる世界最高峰の国際パラスポーツ大会です。大会名にある英語表記「Paralympic」は、「Parallel(並行した、沿う)+Olympic(オリンピック)」を表しています。